

平成24年度定時総会会長挨拶

平成24年5月29日

平成24年度の定時総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、何かとご多忙のところ本総会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃から全建の事業活動・運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本日の総会は、全建が4月1日に「一般社団法人」に移行して初めての総会となります。従来の運営方法と多少異なり、不慣れなところがあるかと存じますが、よろしく願いいたします。本日はまず始めに、「平成23年度事業報告」、「平成24年度事業計画及び同収支予算」および「全建将来ビジョン」についてそれぞれご報告いたします。

続いての決議事項として、「平成23年度決算」をお諮りした後、本年度は役員改選期にあたるため、理事選任並びに監事選任の件につきましてご審議をいただくことになっておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、我が国経済は、依然として厳しい状況にありますが、24年度は復興需要を背景に緩やかな回復軌道に向かうと予測されております。

しかし、一方で欧州各国の信用不安とユーロ安から不確実性が高まりを見せており、我が国の景気が下押しされるリスクが存在することや、電力供給の制約、原油価格の高騰と円高、さらにはデフレの影響等も懸念されております。

建設業界においても、東日本大震災の被災地における復旧・復興需要はあるものの、被災地域以外の地域では、公共投資は依然として大幅なマイナスの状態が続いているなど、相変わらず厳しい経営環境にあります。

こうした状況下においても我々建設業は、厳しい自然災害の多い国土において、国民の便利で快適な生活を創り、そこに暮らす人々を災害から守り、地域の雇用と経済を支えるという社会的使命を果たし続けなければなりません。

また、東日本大震災以降、防災・減災対策や計画的・継続的な社会資本整備の重要性が再認識されてきておりますが、今後もこの経験を風化させることなく、その教訓を活かすとともに、建設業の活動が国民・社会から忘れられないようメディアを活用して積極的にPRし、広報していくことも重要であります。

これらの活動を通じ、「国民から感謝され、夢と希望に満ち自らを誇れる建設業界」を達成するため、コンプライアンスの徹底、CSR活動等にも力を入れていきたいので、今後とも皆様方のご協力をお願いいたします。

冒頭に申しましたように、本会は、4月1日より一般社団法人へ移行いたしました。後ほどご報告いたしますが、この新たなスタートを機に本会では「全建将来ビジョン」を策定いたしました。これまでに建設業が果たしてきた役割、そして現在の建設業を取り巻く様々な状況を鑑みて、①国民の期待に応え地域社会に貢献する、②やりがいと誇りのある建設産業を創出する、③ニーズを共有し実現できる体制の強化を図る、という3つの目標を掲げました。この目標の達成に向けて誠心誠意努力してまいり所存であります。

全建の創立当初からの「建設業を経済的、社会的および技術的に向上させ、建設業の健全な発展を図り、併せて公共の福祉の増進に寄与する」という目的は、いつの時代になっても変わるものではありません。時代に合わせた運用体系や会員の負担軽減に配慮しながら、積極的に力強く、より良い運営を行ってまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様方のご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、各都道府県協会、そして会員企業の益々のご活躍とご発展を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。